



102人が参加 打瀬中学校見学会

去る9月19日、「中学校問題とベイタウンの土地利用を考える会」(以下考える会)は打瀬中学校見学会を開催した。当日は小雨まじりの天候にもかかわらず、102人(事務局を含めると107人)もの見学会参加者があり、改めて教育環境に対するベイタウンの関心の高さが感じられた。実際に打瀬中学校の状況を見た参加者の印象はどうだったのだろうか。

【松村】



移動時間に混雑すると指摘されるホームベースのロッカーを見る参加者(写真左)。教室内の授業の様子を見ながら廊下を移動中(写真右)。

この日の見学会は事前の予約や受付をせず、午前10時打瀬中学校アリーナ前に集合という募集をベイタウンニュースに掲載して行った。平日でもあり20人ほども参加者があればという予想で中学校にも協力をお願いしていたのだが、蓋を開けてみると小雨にもかかわらず予想を大きく上回る102人もが参加した。しかも参加者のほとんどはこれから中学に進む小学校低学年の子どもを持つお母さんたちだった。

当初は会議室で打瀬中学校のシステムなどの説明を受ける予定だったが、この人数では会議室には入りきらない。急遽授業で使っていた特別教室の生徒たちに別教室に移ってもらい、全員で説明を受けることができた。考える会とベイタウンニュースの見込みの甘さが中学に大きな負担をかけることになってしまった。紙上を借りてお詫びしたい。

これから中学に上がる子どもたちの保護者が100人も平日の授業を見学に来るという機会はそうあるものではないだろう。学校では校長先生の挨拶のあと、打瀬中の特徴である教科センター方式など学校の紹介を行ってくれた。私立か公立かなどこれから進学先を考える保護者にとっては丁度良い見学会となったようだ。

人数が予定を大幅に上回ったため全員で学校内を回る予定だったものを3グループに分け、それぞれ希望するフロアを選んで見学することにして授業を見学した。当然のことながら授業を妨げないようにという制約はあったが比較的自由に校内を見ることができ、関心の高かった休み時間のホームベースの利用状況も見ることができた。

教科センター方式では一般の中学と大き

く異なり、生徒は各教科ごとに教室を移動する。つまり普通の中学校のように特定のホームルームの教室をもたない。教科ごとに教室を生徒が移動する姿は制服のないことと相まってさながらアメリカのハイスクールに来たような錯覚さえ感じる。教科ごとに先生は研究室を持ち、一般の中学をイメージしていた保護者には打瀬中は驚きの世界だったようだ。危惧された生徒数の増加による混雑も授業風景を見る限りではまだ適正範囲という声もあったが、移動時間のホームベースの混雑はあり今後単純に校舎を増設するだけでは解消できない問題点もあると思われた。

ただこれは現在の打瀬中の状況であり、今後の生徒数の増加にどう対応するかは改めて正確な分析が必要だ。予測される生徒数の増加は正しいのか。また増設で切り抜けるにせよ、現在の教育水準がきちんと担保されるような設備や配置を遅滞なく行うような要望を市民の声として出していかねばいけない。考える会にとっても新しい課題ができたことになる。

考える会では、これまでに得られた2,000人以上の署名を千葉市教育委員会と千葉県企業庁に提出し、市教委が予定している打瀬中学校の増設計画について詳細な計画と時期を早期に住民に示し説明を行うよう求めていく方針だ。

今回の見学会は平日だったため男性の参加がほとんどなかった。打瀬中学校では年間2回オープンスクールとして学校見学の機会を提供している。今年は11/8(土)に見学会が行われる。打瀬中学校では「保護者以外で見学したい方は8:35~12:00の間に必ず受付を通して見学してくだ

さい」としている。この日は土曜日だが通常の月曜日の時間割で授業が行われるので、平日の授業の様子が見られる。

H7 街区建設予定地はどうなる

企業庁のH7街区の開発計画の中には50戸の高齢者向け住宅が含まれていた。これはシニアクラブが行った住民の意識調査の中で出されていた要望を取り入れたものと言われている。しかし、500戸の計画に高齢者向けの住宅を50戸という規模ではいかにも少ない。またこの50戸は分譲の住戸であり高齢者向けの公共施設ではない。本来中学校という公共の施設を予定した場所にマンションを建てようとしたことが問題の発端であり、高齢者向けの施設を考えるならもっと規模や内容を検討すべきだ。この点は先日の説明会でも高齢者住民から追求を受けていた。

H7街区をどのように活用することがベイタウンの将来に役立つのか。第二中学校新設を含め様々な案が世代によって考えられるだろう。マンションにデイケアセンターのような公共の高齢者向け施設を併設してはどうか。中学校が増設となった場合、部活をする場所のない中学生と市民と一緒に使える第2アリーナのような体育施設はどうか。いっそ都内にあるように分譲マンションと高齢者施設、学校が1体になったような建築物はどうだろう。

去る8月24日(日)に行われた説明会で、企業庁は住民との合意がなければ計画は進めないことを明言している。それでは今後この合意はいつどのように行うのだろうか。企業庁との合意の前に前提となるのは「住民の意見の合意」だ。考える会は会員の主観や希望を企業庁に伝えるためのものではない。住民の意見を集め集約する場だ。考える会では今後住民の望むH7街区の「カタチ」を探るためのアンケートやシンポジウムなどを開いていくことにしている。

考える会が掲示板を開設

<http://9113.teacup.com/utase/bbs>

上のアドレスでインターネット上に掲示板を開設しました。みなさんからの自由な意見をお聞かせください。投稿はどなたでもできます。書き込みの際はパスワード「utase」を入力してください。教育に関すること、ベイタウンの土地利用に対する希望など何でもお寄せください。

掲示板はイタズラや外部からの掲示板荒らしを避けるため10月1日から1ヶ月間の開設としています。

中学校問題とベイタウンの土地利用を考える会

打瀬中アラカルト (8) ～陸上部編～

学校には教科等による「学ぶこと」と、集団の中で多様な文化や価値観・生き方を持った人々と歩み寄りながら共に生きていく力を育む「生きること」の目的があります。そのうち、「生きること」とは問題が発生したとき、どのように乗り越えていけるか、言わば「問題解決力」と言い換えられるでしょう。私たちの生活は、日々満足いくものばかりではありません。しかし、そういう状況下に於いて如何に解決していくかが大事なのではないのでしょうか。部活動は、こうした世界の縮図であると思うことがあります。部活動が「生きること」へのトレーニングの一翼を担っていることは確かな事実です。



3年生引退直後の総体記念写真（青葉の森にて）

さて、陸上部の顧問は平川紀子教諭、片野茂男教諭、村田京子教諭の三人です。代表して村田教諭が9月13・14日に開かれた千葉県新人陸上競技大会の様子を実況します。

会場に着いたその時から、朝一番の競技である200Mに出場する宮城翔子、門脇のえるの表情は引き締まっていた。まずは宮城の入賞を放送が伝えた。続く1500M、エース横田翠が息を飲む首位攻防戦を見せた。100Mハードルでは部長の高山奈美、根本彩加が堂々の入賞。男子も有村匡倫がそびえ立つハードルの上を低空飛行し、賞状をさらった。初日最終競技は4×100Mリレーだ。佐口菜里、山田なつきが風を斬り、ぐんぐんと他校を引き離していく。3走の宮城が美しい弧を描いてアンカーの石野仁美にバトンを渡した時、競技場もフィニッシュラインも、もはや石野一人を見守っているだけだった。

「みんなで壇上に上がる！」という夢。打瀬中陣営は色めき立った。女子総合第3位、全体総合7位、それが初日の結果だ。

「みんなの夢が叶う！」各々が思いを抱えて迎えた2日目。総合入賞に向けて男子が沈黙を破り始めた。恵まれた体躯で期待の柳澤友吾、鈴木修二郎が1年走り幅跳びで賞状を獲得。続く山口航も負けずとスピードを活かし、共通走り幅跳びで上位入賞。前日に続き佐口、山田は100Mでも軽快な走りを見せる。男子100Mでは入賞経験のある大田優介に加え、松崎鷹森が標準記録を上回るタイムで会場の目を釘付けにした。

閉会式、部長の高井弦希は部員の複雑な気持ちを背負い最前列に並んだ。「入賞できるだろうか」みんながその問いを心の中で反芻し、祈った。打瀬中の名前は「女子総合6位」の時にだけ呼ばれた。総合9位（通常8位までが入賞できる）。閉会式前の複雑な面持ちはもう誰からも見られなかった。「負けるのには必ず理由がある」顧問の片野教諭がよく口にする言葉だ。ぎりぎりまで負けてしまうのは、一人一人に甘えがあったから。その日の号令はいつになく大きく、また力強く秋の空に響いた。

夏の総体で活躍した3年生の関、森實、中澤、奥村、服部ら上位入賞のがんばりを2年生は間違いなく引き継いだのだ。

今年もやります！ 幕張海浜公園まつり'08 秋 「ハロウィンパーティー in 幕張」

幕張の浜に沿って広がる幕張海浜公園海側ブロック。普段あまり利用されていないこの約26haにおよぶ広大な公園を「もっとみんなが楽しめる場所にしたい！」という思いで、県民有志がボランティアで始めたこのイベントも、今回で8回目になります。今回のテーマは、昨年大好評だった“ハロウィンパーティーをもう一度”。仮装パレードを中心に、ハロウィンにちなんだ(?)、子どもからお年寄りまで一日中楽しめる様々なプログラムを展開します。パレードに参加してくれた人には、もちろん“Treat”も用意しています。10月12日(日)は、好みの仮装をして幕張海浜公園海側ブロックに集まろう！



なお、当日に限り公園内でバーベキューを楽しむこともできます。参加費や事前予約の必要なプログラムもあるので、詳しくはウェブサイトまたは下記問い合わせ先まで。

開催日時：平成20年10月12日(日)
(雨天の場合13日(祝)に順延)
午前9時～午後4時まで
(パレードは12時頃開始予定)
会場：県立幕張海浜公園
海側D・Eブロック
主催：幕張海浜公園まつり'08秋
実行委員会事務局
(NPO 幕張海浜公園を育てる会内)
問い合わせ：043-211-1068
ウェブサイト：
<http://www.sodaterukai.com/>



住民協議会準備会速報

本誌8月号でも既報のとおり、7/20(日)の準備会会合で住民協議会の方向性が見直され、①管理組合の横の連携組織の立ち上げ、②自治会連合会、管理組合の連携組織、UR/公社、商店会などからなる上位組織としての住民協議会(仮称)の検討の2つの活動が動き出した。①については、シティーズフォートの鈴木さんの呼び掛けで、8/31(日)に最初の会合が開催され、18の街区の管理組合からの代表者が参加した。会合では、この集まりを各街区の管理組合の情報共有組織としてのみ捉える番街と、やはり②の住民協議会のような、番街を横断した街全体の資産保全を考える土台として捉える街区とで立ち位置が二分されたが、少なくとも今後も会合を継続して開催していくことが合意された。

②に向けての動きとしては、本誌9月号でお知らせした助成金獲得を受け、組織としての執行管理義務も生じたため、自治会連合会内に『特別委員会』を設けて本活動を積極的に支援していくことになった。なお、住民協議会の設立を目指して規約の作成などの活動をしてきた設立作業部会は引き続きその役割を負い、そこに自治会連合会の『特別委員会』が参画(実質的には、メンバーはほぼ重複)することになる。設立作業部会としては、住民協議会設立に向けての最重要課題は住民コンセンサスを得るための周知活動であると捉え、広報紙の発行(近々第1号が発行される予定です)、企業庁主導の街のあり方研究会の報告書の配布、シンポジウムやワークショップの開催などを検討して行くことになる。

田上満理さん (小2) 街で育てる音楽家

今年の8月8日。ピティナ・ピアノコンペティション東日本千葉II地区本選。すべての演奏が終わり、あとは審査の結果発表を待つだけとなった船橋市勤労市民センターは静寂につつまれた。田上満理さん(美浜打瀬小2)も緊張していた。昨年は初めての出場で集中できず、満足な演奏ができなかった。今年はそのくやしさをバネに一年間頑張ってきたの挑戦だった。

やがて結果発表が始まる。奨励賞、優秀賞と進むがこの中に自分の名前はなかった。残る賞は3つ。3位・・・、2位・・・、ここでも名前は呼ばれなかった。残るは1位の一人だけ。今年もだめだったか。満理さんも一緒に行っていたお母さんもそんな気持ちになった。

「第1位 19番 田上満理さん」。一瞬耳を疑った。やがて周りの祝福ではじめて事態が飲み込めた。第1位で全国大会に進めたんだ。

満理さんが今年本選での演奏に選んだ曲の1つは「わかれ」(グレチャノフ)。技巧的には難しくないが小学校低学年にはロマン派の哀しさを歌い上げるのは至難という。しかし満理さんは「好きだから」とこの曲を選び、「最後の1音まできれいな音」(講評より)で弾ききった。

田上さんを取材するのは実は2度目になる。覚えている方もいると思うが、今年の3月号で「街で育てる音楽家」として田上友理さんを紹介した。満理さんのお姉さんだ。2月に田上家に伺い話を聞かせていただいたとき、満理さんは傍にいて話を聞いていた。賞を取ってインタビューされるお姉さんをうらやましそうに見ながら言った言葉が妙に記憶に残っていた。「お姉ちゃんを抜かしたい」

1年間お姉ちゃんを目標にがんばってきた。1台のピアノを奪い合って2人で練習してきた。残念ながらお姉ちゃんの友理さんは今年腱鞘炎で思うような演奏ができなかったが、その悔しさを満理さんが晴らした格好だ。



演奏後会場にて大垣先生とお姉ちゃんに囲まれて

もっともお姉ちゃんは心中穏やかではない。これまでは「相手にならない」と思っていた妹がピティナでは先に全国大会に出場してしまったのだ。今2人の間では「どちらが上手なのかを何で決めるか」で可愛い争いが起こっている。お姉ちゃんはコンクールでどちらがレベルの高い賞を取るかだと主張しているが、満理さんは「コンクールでもらった楯やメダル、賞状の数」が問題らしい。

そんな将来の利器を2人も持つお母さんだが、意外に冷静だ。音楽は一生の友達になるので、楽しくピアノを続けて欲しい。コンクールで賞を取るの嬉しいけれど、2人が楽しくピアノを続けてくれるのが1番。このゆったりとした姿勢がのびのびとした演奏を生むのだろう。

ピティナ(全日本ピアノ指導者協会)ピアノ・コンペティションは今年で32回を迎えた「ピアノの甲子園」と言われるコンクール。ソロ部門は就学前の幼児から成人まで全部で10段階の級で競われる。

田上さんを指導している大垣先生は「田上友理さんのショパンコンクール in ASIA が記事になったことでベイトウンの多くの子もたちが「私もやってみよう」、「自分をためしてみたい」とコンクールにチャレンジするようになりました。コアでフルコンサートピアノのファツィオリを弾くことができることもあり、いろいろなコンクールでベイトウンの子どもたちが活躍するのを聞いています。これからも音楽を通して街で子どもたちを育てることができればと思います」(松村)

「幕張美浜音楽祭 2009」のお知らせ

日時・会場：2009年3月19日(木)～3月21日(土)

美浜文化ホール(千葉市美浜区)他

公演数：約25公演(予定)

総チケット枚数：約3,000枚

主催：幕張美浜音楽祭プロジェクト

(市民ボランティアが組織する実行委員会)

共催：美浜文化ホール

後援：千葉市教育委員会 千葉市文化振興会

問い合わせ先：090-5437-4431(連絡先電話)

e-mail：dwrb044@ybb.ne.jp

HP：http://music.geocities.jp/dwrb044/index.html

※詳細は10月頃に正式に発表します。

※各公演のチケット発売は2009年1月になる予定です。

募集

※この音楽祭は市民ボランティア企画のため、協賛して下さる方のご支援を募集しております。ご支援をいただける皆様には是非お問合せください。

※音楽祭では祝祭オーケストラを募集しています。

10月のコア・イベント

10/18
(土)

わくわくおはなし会 10月の常設おはなし会
時間：10:30～
場所：ベイトウン・コア 講習室(途中入場もできます)

年齢制限なし。予約は必要ありません、みんなで来てね。
今月も、楽しい絵本やゲームを用意しています。
おとうさん、おかあさんも、ぜひ一緒にどうぞ。

10/25
(土)

寺子屋工作ランド
「木の実笛」(ドングリや木の実で笛をつくります)
時間：9:30～
場所：ベイトウン・コア 工芸室
持ってくるもの：小刀、工作道具
参加費：50円(保険料)

10/19
(日)

第68回ファツィオリの会

時間：9:30～11:30

場所：ベイトウン・コア 音楽ホール

毎月一回行っているミニミニコンサートです。

日曜日の午前中・・・楽しいひとときを!

最新のプログラム内容は<http://www.baytown.ne.jp/core/>にてお知らせします

申し込み締め切り：10月12日(日)

連絡先：E-mail：chacha-c304@m2.pbc.ne.jp / TEL276-4266(庄司)

「ウィンターコンサート」のお知らせ

日時：12月21日(日) コア・ホール

ピアノや他の楽器演奏、アンサンブル、声楽、合唱 etc・・・

子どもから大人まで参加できるコンサートです。

参加を希望する方は下記まで

連絡先：ベイトウン音楽愛好会 阿曾 211-0273

受付期間：10/4(土)～10/31(金)

応募多数の場合は、先着順にて締め切らせていただきます。

秋の楽しみ 実のなる街路樹探し

8月のある日、ラジオ体操を終えて歩いていると頭の高さほどに枝を下ろした街路樹に実がついているのに気が付いた。直径3cmほどの大きさで、表面は沢山のトゲのような突起に覆われている。見上げるとその木には同じ実がたくさん枝から垂れ下がっていた。よく見ると隣の木にも、その隣の木にも同じように実が付いている。

何の実だろうと友人に実をひとつ取って見せると、「スズカケ」の実だと教えてくれた。なるほどこれがスズカケか。言われてみると実は鈴のような形にも見える。枝から下がる実のシルエットは確かに鈴をぶら下げたようだ。

それにしてもよく聞くスズカケの実も分からないようで、ベイタウンの草木のことを物知り顔でニュースに書いては申し訳ない。さっそく夏休みの自由研究よろしくベイタウンの街路樹につく木の実について調べてみた。

まず最初に見つけたのはナンキンハゼだ。これは8月の末頃リンコス前の歩道で実のなっているのを見つけた。プロムナードに沿ってコアの前にも沢山植えられている。直径1cmほどの実が4、5個ずつ1房になり沢山ついている。だがよく見ると実を付けている木とそうでない木があり、実のない木の方が多いようだ。ナンキンハゼにもオス・メスの違いがあるのかもしれない。



エゴノキの実(写真上)とナンキンハゼの実(写真右)

グリーンサムの街路樹調査

日時：10月11日(土) 10:00
場所：コア工芸室

今月はヒマワリのタネをプレゼント

恒例の野草のタネプレゼント。今月はヒマワリのタネが収穫できました。先着で20人分あります。いつものようにベイタウン・コアのご好意で受付に置かせていただきました。ご希望の方は受付にお申し出ください。

第6回コーラスの集い

コアホールの誕生と共に始めた「コーラスの集い」も6回目を迎えました。ベイタウン住民を中心とした20代～80代のメンバーが集う、定期演奏会です。「女声コーラス瀬音」は富弘美術館でご存知の星野富弘さんの詩による「花に寄せて」を、「混声コーラスG A F U」は、「落葉松」他を練習してまいりました。2団体合同のステージでは、「東京物語」を歌います。この曲は、戦後の復興の様子を「リンゴの唄」～「ここに幸あり」まで9曲のメドレーとナレーションを入れた曲です。ナレーションは「わくわくお話し会」の方にお手伝いいただきます。また、毎回この街の演奏家の方々に、プログラムに華を添えていただいております。今回は、エレクトーンとクラリネットの演奏も楽しみです。我が街のアットホームな演奏会、どうぞ秋の日のひと時ご来場下さいますよう、団員一同お待ちしております。

とき：10月26日(日) 午後2:00 開演
ところ：幕張ベイタウン・コアホール (入場無料)
お問い合わせ：211-7740 花藤

ナンキンハゼの実からは油が取れ、その油を材料にロウソクができるそうだ。すりつぶして蒸すと油が出てくるともの本に書いてあった。公民館の館長先生と小学生の実験にできないかと相談してみた。実験自体はそう難しくないようだが、ひとつ困ることがあった。ナンキンハゼはハゼの仲間なのでアレルギーのある人には肌がかぶれたり、腫れが出たりする。そういえば子どもの頃、よく山に遊びに行って、翌日学校に行くと顔が腫れただけになっている子がいた。気付かずにハゼの木をさわったりすると腫れたりするそうだが、個人差があり平気な子は平気ということだった。しかし実験のせいで子どもにアレルギーが出たりしては大変だ。残念ながら公民館で理科実験の計画は中止になった。

バレンタイン通りにはトチノキが植えられている。この実は大きくてとても立派だ。こぶしほどの大きさもありそんな房に実が何個かつまっている。だがこの木もオスメスがあるのか、ベイタウンで実を付けている木は少ない。去年沢山実を付けていた木が今年は全く実を付けていないということもある。トチノキはミツバチがよく集まるそうなので、ハチが余りいないベイタウンでは受粉ができないのかもしれない。これは実験の価値がありそうだ。来年トチの木の花が咲いたら、人工授粉させて秋に実を付けるかみんなでやってみてはどうだろう。

もうひとつベイタウンには「エゴノキ」という名前の木が植えられている。なんともベイタウン住民の気質を考えて植えられたような名前の木だが、この木にも沢山実が付いていた。エゴノキの実は熟すと石けんの材料になるそうだ。つぶして水を加えて手で揉むと泡が出てくるといふ。このニュースが出ている頃は実も熟しているだろう。子どもと一緒にやってみてはどうだろう。

街路樹については「グリーンサム」のみなさんが毎年街路樹調査を実施しており、その様子や結果がコアに展示されている。

【松村】

0歳から学べる児童英語教室 神田外語キッズクラブ 大学教室

神田外語大学

人と人との「言葉のキャッチボール」を通して心の触れ合いを大切にしています。学んだ英語で自分の気持ちや考えを伝えることが出来、積極的にコミュニケーションが図れる『小さな国際人』の育成を目指しています。



大学キャンパス内の教室です。外国人講師参加 lesson の一コマ。

無料体験レッスンのご案内

10月11日(土) 10:30～11:30
10月15日(水) 15:30～18:30

対象：0歳～小学4年生

*詳細はお申込み時にお知らせいたします。



教材・教授法は大学の言語習得理論に基づき発達年齢に応じた内容です。小さいうちは、体を動かしたり歌を歌ったりしながら、また高学年になると中学校の架け橋として『読む・聞く・話す・書く』の4スキルを習得します。



【お申込み・お問合わせは】 フリーダイヤル **0120-154-815**
KIDS' CLUB <http://www.kidsclub.co.jp>
info@kidsclub.co.jp